

総務文教委員会記録

令和7年1月29日（水）
10時51分～11時33分
第3委員会室

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 松井書記

【議題】

- 1 行政視察を終えて（委員間で協議）
- 2 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 51 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は6名で定足数に達している。それではレジュメに沿って進める。

1 行政視察を終えて（委員間で協議）

○芦谷委員長

視察報告書について、皆からそれぞれ所感等を提出してもらった。各委員からポイントの部分を発言いただき、後に正副委員長で委員会の考察をまとめて議長に提出したい。

まずNPO法人CRファクトリーの視察について、担当の岡本委員から説明をお願いします。

○岡本委員

視察の概要として、CRファクトリーの紹介と川崎市の取組についてまとめた。所感としては、現在、当委員会では若者に関するいろいろな事業に取り組んでいるが、川崎市の事業は地域が支援しながら一緒になって子どもたちの今を実現していくという点において非常に良い取組だったので、それを紹介し、取り組んでもらえたらという提案になると思っている。

○芦谷委員長

全委員から、所感としてポイントの部分を発表してもらいたい。

私からは、浜田市に中間支援組織があるが、それが機能しているか疑問も感じた。中間支援的なものが行政と地域との間にあって進めるのが大事だと感じた。視察先は新しい時代に対応するコミュニティづくりとして実践していると感じた。

2点目に、浜田市まちなか交流プラザなどについても、若い人との協働をやっているのも、これも一つの参考として書いてみた。

3点目に、そのためにも浜田市の場合に置き換えると、まちづくりセンターの職員体制の確立、研修、まちづくりセンター間の横の連携といったことが、川崎市や東京での事例を見て思ったところである。

○沖田副委員長

一番特化すべき点は何かといったときに、かつては住民の要望を聞いてハード整備を行うことで地域課題につながっていたが、これからは行政が意欲ある住民の後押しをいかに進めていくかがポイントだと言われたのが一番印象に残った。川崎ワカモノ未来PROJECTの一番注目すべき点は、住民の主体性を引き出す仕組みが非常に優れている点である。浜田市に置き換えて考えた場合、中間支援組織を立ち上げて拠点も整備しているが、人材が足りているようには思えないし、まちづくりの予算の使い道という点では、この川崎市の取組は参考になるのではないかという印象を受け

ている。

○村武委員

若者のやりたいことを実現するための川崎市からの委託事業ということで、川崎市に若者たちのやりたいことを実現したいという意図があり、CRファクトリーがそれをサポートするのだと思う。はまだ市民一日議会で発言した大学生からも、学生のやりたいことを実現する仕組みをつくってほしいという意見があった。そういう意味では、浜田市でもCRファクトリーのような中間支援組織や仕組みがあれば、学生や若者たちがやりたいことを実現できるのではないかと感じた。浜田市にもはまだ協働学舎ファンタスという中間支援組織があり、まちづくりセンターにもそういった役割があるかもしれないが、CRファクトリーのような専門的な知識はまだまだ少ないので、ぜひ浜田市の中間支援組織やまちづくりセンターにもスキルアップのために知識を入れて、若者のやりたいことを実現してほしいと感じた。

○永見委員

川崎市は若者が主役になれるような取組をしていて、高校生と大学生や地域の人たちとのつながりやコミュニティの創出などに取り組んでおり、住民の主体性を出すには大変良い取組だと感じた。浜田市においても、若者なり地域住民とのコミュニケーションを図るためにこのような取組を検討すべきではないかと思った。

○西田委員

私も中間支援組織、団体の役割が非常に重要だと思った。それから市民の意識の問題として、市に対して要求するばかりでなく、市民からいろいろな提案をして、市がそれを応援する形が理想的なので、浜田市もそういう意識を持っていかなければいけない。また、ことなかれ主義ではなく、ことづくり主義を推進していることも一つの大事なポイントだと思う。それから、若い人たちの可能性を引き出すための伴走支援に徹している。その伴走支援という言葉も非常に心に残った。

○芦谷委員長

皆に所感を発表してもらった。質問や補足はあるか。

(「なし」という声あり)

2番目、東京都豊島区の、区民による事業提案制度について、まず担当委員から説明をお願いします。

○村武委員

まず選定理由としては、浜田市議会においては議会報告会やはまだ市民一日議会など、市民の考えや事業提案を聞く場があるが、市民が市に対して事業提案する場は少ないので、そういった意味では豊島区民による事業提案制度は良いと感じた。

視察の概要は、この事業は区長の思いから始まったが、1千万円を上限とする予算を添えて具体的な提案ができるのが良いと感じた。そこから審査して事業を最終決定するのだが、そのプロセスなども非常に考えてつくられていた。

もう一つ、「こどもレター」という子ども版広聴事業についても説明していただいたので、それについても書いた。

○芦谷委員長

では各自から所感を願います。

まず私から。この提案制度は市民の市政参加、協働のまちづくり、市民への説明責任、あるいは市民の声や地域の実情の市政への反映、こういったことを進める上で大変重要であり、浜田市もこれを参考にして制度化を検討すべきだと感じた。

その後は、浜田市にも市民参画のいろいろな方法があるが、それが必ずしもしつかりと市民が参画する仕組みになっていないという切り口で書いている。その一つとして、市が進めているパブリックコメントがあるが、令和元年から令和5年までの31の条例、計画について募集したが、そのうち21の条例、計画は寄せられた意見が10件未満なので、市民の参画は決して十分でないと思う。市長への陳情の件数についても件数を調べてみた。職員の提案制度は、平成24年度を最後に途絶え、令和6年度にはやり方を改善して応募100件と大幅に増えた。市民からの提案だけでなく、職員の提案制度なども考えてみる必要があると考え、参考のために書いてみた。

○沖田副委員長

豊島区の区民提案制度の一番優れている点は、課題を身近に感じている住民から直接課題を洗い出してもらうところが非常に注目すべきポイントだと感じた。洗い出した課題に直接予算をつけて解決に向かっていくことで、住民が行政に参画する意識がある程度高まるだろうという気がしている。浜田市にも市民一日議会のようにそれに近いものはあるが、予算が担保されていないことは、提案する側のモチベーションを大きく左右するのではないかという印象も受けた。その部分はこの事例を踏まえて、今後委員会として少し協議しても良いのではないかと考えている。

○村武委員

予算がきちんと担保されて、住民からの提案を受けるというプロセスがしっかり制度化されている。これは浜田市でもやっていけないのではないかと考えた。先ほど副委員長も言われたが、行政への関心が高まるのではないかと考えた。全ての事業が実現するわけではないが、職員にとっても参考になる部分があり、そういった意味でも良いのではないかと。

それから「こどもレター」はぜひ浜田市でも実現して、子どもの意見を聞いてほしいと思った。

○岡本委員

区民による事業提案制度については、住民が地域課題に主体的に関与し、行政と協働で解決策をつくり出す良い取組だと思っている。また、インターネットなどによる投票を組み合わせた仕組みなども非常に先進的だと思った。浜田市も市民の声を積極的に取り入れる仕組みとして、この取組は良いのではないかと考えている。今後まちづくり等にも取り入れる形になれば良い。

○永見委員

この提案制度は令和5年度に始まったが、初年度はかなりの区民が参加し、投票などで決まった6件に取り組み、それが事業化につながっていることに興味を持った。

また、2年目の今年度は項目を定めて募集するということで、今年度は災害が多かったので防災への関心が高かったのだろうと感じた。事業提案制度は住民の新たな視点から課題を抽出でき、課題解決につながるのではないかと感心した。浜田市もこのような制度について検討する余地があるのではないかと思った。

○西田委員

この制度は当初から予算が確保されているため、豊島区よりも浜田市のほうがより効果が出てくる気がする。また、子ども版広聴事業もそのまま参考になると思った。

○芦谷委員長

質問や補足があるか。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩する。

[11 時 10 分 休憩]

[11 時 19 分 再開]

○芦谷委員長

3点目の、香取市の市内公共交通の再編についてである。視察の概要をまとめた永見委員から説明をお願いします。

○永見委員

香取市が新たに導入したデマンド交通「かとくる」について、導入に至った経緯、運行状況の説明、予約状況などの説明を伺った。公共交通は当委員会の取組課題であり、デマンド交通に取り組んでいる様子を拝見でき、大変良い視察になったのではないかと考えている。

○芦谷委員長

続いて各委員の所感だが、私からは、香取市ではいち早く交通事情を掌握して短期間に検討組織を立ち上げて事業化している。浜田市においても交通施策を検討するに当たり、行政の対応について参考になると思った。

二つ目には、かとくるは区域運行とルート運行という二つの方式でやっており、佐原市街地エリアと小見川市街地エリアで共通乗降場所が決められているが、二つのエリアで良いのかは疑問に思った。両市街地間の移動ができないという制約があり、利用者の不便が見て取れた。

再編後の現在はコミュニティバスが4ルート、かとくるの区域運行、ルート運行の二つのみであり、浜田市の交通手段の再編を整理する場合には参考になると思った。香取市の乗合タクシーは学童送迎用のみとのことだった。

これは一般論だが、市民の移動の確保や社会参加の促進、市民の健康づくりなどによる地域の元気づくりにつながるのが交通の確保なので、財政負担を含め、体系的、組織的に検討すべきだと思った。

○沖田副委員長

注目すべきは公共交通計画の再編という点ではないかと思う。かとかの優れた点は、ICTの投入による予約システムである。これは昨年視察した岡山県真庭市と同様に、かなり参考になると思っている。これを浜田市に置き換えた場合のMaasという技術の取り入れである。

香取市では、二つの運行形態を取らざるを得なかった事情も伺った。浜田市でも路線バスが減便、廃線になるということは、タクシーも決して十分確保できる状況ではないと思うので、そのあたりの交通形態は非常に参考になった。

○村武委員

副委員長が言われたように、予約の受付については非常に参考になった。かとかは区域運行とルート運行の二つを実施しているが、地域の特性を生かすことをよく考えているので、住民は利用しやすいのではないかと感じた。市職員の苦労というか、いろいろな協議をしたりといったことを感じたので、浜田市ではそこまでやっているのかどうかかわからないが、私自身も認識不足で、地域交通の難しさを再認識した。

これを浜田市に置き換えた場合に、予約型乗合タクシーやあいのりタクシーなど、充実している部分もあるので、もう少し整理が必要だとは思いますが、浜田市も結構進んでいるのだとは感じた。

○岡本委員

令和6年10月から始まった事業だと説明を受けた。今後、利用者の予約状況や運行ルートの実効性を確認するという説明があり、本当に課題が見えてくるのは今後だろうということで、その経過や状況を知りたいと思った。

浜田市から見て、香取市の現実に即した施策設計と実践については非常に印象的である。視察を通して、この内容を生かして事業を検証しながら、浜田市でも住民の声を反映した新たな公共交通の仕組みについて検討すべきではないか。持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思った。

○永見委員

市内路線バスの再編により、鉄道やバス、タクシーを利用しづらい交通空白地帯が発生した。かとかの予約等についてはICTを活用したオンデマンドシステムによって配車され、効率的な運行サービスが提供されている。また、二つの運行方法が採用されていることも参考になった。浜田市が取り組んでいる予約型乗合タクシーは、地域によって利用率が低いため、利用率の向上のために地域に応じた運行方法の検討が必要ではないかと思った。

○西田委員

浜田市においても、今後AI、ICTを活用した地域公共交通が望まれるのではないかと考えている。香取市の場合はパブリックテクノロジーズ社に委託しているが、ほかにも何社があるので、そういったところとのつながりを模索していくのか、地元の中でできる組織、団体を活用するのも含めて、これから考えが必要になってくるのではないかと。当然国の地域公共交通補助金も活用しないといけないと思った。

○芦谷委員長

それぞれまとめと所感を発表してもらった。委員会としての考察をまとめて報告書を完成させる必要がある。これについては皆の所感と今日の発言を踏まえて、正副委員長で委員会の考察をまとめようと思うが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは正副委員長にご一任いただく。

また、行政視察レポートを作成して全員協議会で報告する必要がある。直近の全員協議会は2月7日だが、作成が間に合わないので、その次の2月25日の全員協議会で報告できるようにつくりたいと思うが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

でき上がったら皆に事前に見てもらおうと思っている。何かあれば提案や意見を頂戴したい。

2 その他

○芦谷委員長

交通問題に対する委員会としてのまとめ、提言の段階に入った。前回の委員会の後、副委員長の案を基に前に進めるということにしたので、副委員長から発言をお願いします。

○沖田副委員長

地域交通についての提言の副委員長案を参照されたい。まず前文があり、委員会としての取組を時系列に書いている。

提言内容は5項目あるが、今の段階ではもっともらしい何の答えもないことが書いてある。この五つはあくまでたたき台である。これが減るかもしれないし増えるかもしれない。委員全員で最終的には検討していかなければいけない話だろう。委員それぞれの考え方もあるだろうし、また協議しながら進めていければと思っている。まずは読んでいただき、修正等についてご提案いただきたい。日を改めて、取組課題について委員会を開催すれば良いと思う。

○芦谷委員長

副委員長に案をまとめてもらっているので、もう一度お目通しいただき、さらに補足等があれば次の回に発言いただき、まとめていければと思っている。

その他に何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは以上で総務文教委員会を終了する。

[11 時 33 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦谷 英 夫